

# 対象としての〈もの〉と〈ひと〉

根矢三千代

## 0. はじめに

快樂の意味において言うならば、マスターベーションと性交は同じものであるということが出来る。しかし、それぞれの対象とするものがマスターベーションの場合物であり、性交の場合人であるということを考えれば、やはりそれらは同じとは言えない。

性における〈もの〉と〈ひと〉との違いは、一体何を基準に行われていくのであろうか。また、その違いにより、行為の内容がどう変化していくのかを明らかにしていきたい。

## 1. 行為における物と人

性交とは、「男女の性的な交わり。交接。媾合。房事。」(新村編〔1955→1969→1983:1319〕)を意味し、現代では男女という限定が必ずしも必要とはならないが、主体における対象は人であり、その行為によって得る感覚の与え手を人に求める。

一方、マスターベーション(手淫)とは、「手などによって自分で性的快感を得る行為。自慰。自洩。」(新村編〔1955→1969→1983:1124〕)を意味し、その行為によって得る感覚の与え手は物(自分の手なども含む)であり、それは性的主体確認の行為であると言われている。

性交とマスターベーションは、このように、それぞれ対象とするものが違うことや、行為の性質の違いにより、別々のものとして取り扱われてきた。

しかし、強姦の画面で見られるように、お互いの合意なく行われる行為に関して、それは、人と人による行いであるにも関わらず、つねに性交という表現が通用するのかどうかは疑問である。「性的な交わり」をすることが性交であるなら、強姦によって行われることは性交であるに違いない。ところが、その行為によって得られる感覚を求めているのは主体であり、そこに主体-対象という相互の関係はない。このことから、単に、性交の対象が人で、マスターベーションの対象が物であるとは言えないのではないか。

そこで、それぞれの行為における対象の特定化について、次の章から見たいと思う。

## 2. 強姦にみる〈もの〉と〈ひと〉

ここからみていく強姦というものに対して少し説明しておく必要があるであろう。一口に強姦といえども、そこには数種類の形態が存在しており、それぞれを分別する必要がある

り、ここでは主体が行う行為の対象に対する限定の度合いによって決定する。

まず、対象となる人がはじめから想定されており、また、その人でなければ意味をなさないとき、いわゆる対象特定型と、主体にとって相手は誰でもよく、言ってみれば性欲のはけ口でしかない、対象非特定の場合である。

ここでは、主体による対象の特定／非特定から、性における<もの>と<ひと>の決定はどのように行われているかを、同意を得ていない性交の事例として考えられる、強姦を扱ったビデオと漫画から検証していく。

### (1) 対象特定



<図1> (監督不明〔1997〕)

<図1>は、自分のことを馬鹿にした教師に対して、復讐のために生徒が強引に性交を求めるといふものであるが、この場合言えるのは、彼が求めている対象は特定の女教師である、ということである。作品中にみられる、「おとなしくしろよ。」「気持ちよくさせてやるんだよ。」「そのままじっとしてろ。」などと言う、征服欲を満たすとともに相手を、意思によって動く対象としてみていること分かる言葉や、「気持ちいいだろう。」という相手の反応を求める言葉から、性交の相手、つまり<ひと>としての対象を求めていることが分かる。また、彼にとっての目的が<ひと>との性交であるため、対象となる相手の反応が必要となるのである。

<場面1>は、自己中心的で支配欲の強い男子高校に見切りをつけた主人公に、彼女をあきらめきれない男子高校生が復縁を迫り、その迫り方に耐えきれなくなった主人公が帰ろうとしたところを、男子高校生が無理矢理、性交に持ち込んでいる場面である。このとき、男子高校生にとっての相手は主人公という、特定された<ひと>を対象としている。また、主人公の「しまった」と言う言葉から、与えられた快感に対する反応を見せることが、この場合は、適切でない困ったことだと考えていることがわかり、反応を示すことが、この行為を、相互の関係による性交になりうることを表している。



<場面1> (内田 [1987:54-55])

(2) 対象非特定

強姦している男



女性

<図2> (ヘンリー塚本 [1992])

<図2>は、山登りをしていた男女に、婦女暴行で前科二犯のある男が、その女性を強姦するために男性を殺害した後、さらに女性を殺害し、挿入を行うというものである（挿入を行う時点では女性は仮死状態であり、射精後に気がついた女性の首を絞めて殺害する）。この場合、男は、女性を犯してから殺すのではなく、殺してから犯している。つまり、彼が求めているのは、女性の反応ではなく射精をするという行為であり、<ひと>としての対象ではなく<もの>としての対象である。

さらに、<場面2>においては、独裁的思想の更正という名目のもと拘禁されていた男性が、ライバルが好意を寄せる女性を陵辱することによって、そのライバルに精神的ダメージを与えようとする姿が見られる。この場面においては、陵辱の対象は、“ライバルの大切な人”であり、ライバルの付属品である。このことは、女性が誘いに乗らなかったことに対する「失敗に終わったか」という言葉や、「報復」という単語からも伺える。つまり、この場合も、男性が求めているのは<ひと>としての対象ではなく<もの>としての対象だということができる。



<場面2> (日渡〔1990:133〕)

上記の(1)と(2)を比べると、強姦と言うことに関しては、射精が行為の終了を表すという、行為終了時点に差はない。そこで、この2つにおける差は、過程において対象の反応を求めるかどうかということになってくる。<図1>での男性が、女教師を反応を返してくる(返すことのできる)<ひと>としてみることによって、性交となり得ている。しかし、<図2>の場合、男性が求めているのは、行為の結果(=射精)であるため、女

性を<もの>としてみている。つまり、<図2>に関しては、男性が行っている行為は、マスターベーションと見て取ることができ、行っていること自体の名称に違いがないにも関わらず、目的は全く違うこうになる。

また、<場面1>においては、主人公という特定の対象を求め、その対象の反応を求めることで、<ひと>としての主人公を対象化している。しかし、<場面2>に関しては、求めるものは女性の反応ではなく、ライバルの愛する<もの>である。これらのことにより、強姦という、名称的に一つのものでありながら、主体の対象に対する反応の要求の違いによって、それぞれに対象とする相手の存在意味が違ってくることになる。

### 3. おわりに

これまでのことにより言えるのは、性における<もの>と<ひと>の違いは、主体による状況依存によって決定され、私たちが普段見ている物や人のように、状態依存ではないということだ。性における<ひと>ははじめから人ではなく、<もの>ははじめから物ではない。主体の求めるものが、反応か目的かと言うことによって、対象が<もの>化され<ひと>化してくるのである。主体の射精やオーガズムがあろうとなかろうと、主体が対象に対して反応を求めるなら、対象=<ひと>として位置づけることができる。反対に、目的のために利用するのであれば、それがたとえ人であり、行っている行為は性交であっても、対象=<もの>として扱われることになる。

さらに、このことから、主体の行為は、性交=対象を<ひと>と見なす、マスターベーション=対象を<もの>と見なすという認識を作り上げているとも言えるであろう。

### 参考文献

- 赤川 学 1996 『性への自由/性からの自由』, 青弓社。
- Dworkin, Andrea 1979 *PORNOGRAPHY Men Possessing Women*=1991 寺沢みずほ(訳) 『ポルノグラフィー』, 青土社。
- Giddens, Anthony 1992 *The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies*=1995 松尾精文・松川昭子(訳) 『親密性の変容』, 而立書房。
- 日渡 早紀 1990 『ぼくの地球を守って 第10巻』, 白泉社。
- ヘンリー 塚本(監督) 1992(出荷) 「大菩薩峠婦女暴行事件」, 『日本性犯罪史II』, (有)エフエー映像出版プロダクト (入手元 徳島市アーケ常三島店)。
- 『女教師レイプ 強制顔射』 監督不明 1997(出荷) U&K (入手元 徳島市アーケ常三島店)。
- 櫻田 美雄(編) 1998 『エスノメソドロロジーとその周辺—平成9年度徳島大学総合科学部櫻田ゼミナール ゼミ論集—』。

- 櫻村 愛子 1995 「性的他者の可能性」, 井上 俊・上野 千鶴子・大澤 真幸・見田宗介・吉見 俊哉 (編) 『岩波講座 現代社会学 3 他者・関係・コミュニケーション』:137-153, 岩波書店。
- 水田 宗子 1996 「性的他者とは誰か」, 井上 俊・上野 千鶴子・大澤 真幸・見田宗介・吉見 俊哉 (編) 『岩波講座 現代社会学 10 セクシュアリティの社会学』:25-60, 岩波書店。
- 新村 出編 1955 『広辞苑』, 岩波書店 (初版) → 1996 (第二版) → 1983 (第三版)。
- 白藤 花夜子 (編) 1992 『ポルノグラフィ』, 学陽書房。
- 内田 春菊 1987 『幻想の普通少女』, 双葉社。

**徳島大学総合科学部社会学研究室報告 既刊**

- 1 エスノメソドロジーとその周辺  
—平成9年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集— 1998年3月発行
- 2 ラジオスタジオの相互行為分析  
—平成9年度徳島大学総合科学部社会調査実習報告書(第二版)— 1998年10月発行

---

**エスノメソドロジーと福祉・医療・性**

—平成10年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集—

発行日 1999年2月13日発行

編集 榎田美雄

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1丁目1番地

☎(088)656-9308

発行 徳島大学総合科学部社会学研究室

印刷・製本 平成10年度徳島大学総合科学部榎田ゼミナール ゼミ論集 発行プロジェクト

---